

平成24年度事業報告書

応用情報学に関する学術、技術の研究開発を推進し、かつ研究開発の成果の公開と人材の育成を図り、もって宮城県の産業の振興発展と県民の福祉の向上に寄与することを目的として、平成24年度は下記の事業を行った。

[公益目的事業]

1. 公益事業1 ICT（情報通信技術）を活用した街づくりに関する実践的基盤技術研究開発

(1) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業

東日本大震災は、地域産業の要である農業と地域コミュニティ（農村社会）に大きな被害を残した。地域産業の要である農業と地域コミュニティが活力を取り戻すことが復興と発展につながるとの視点から、国際競争力の高い農業を作るための情報活用基盤を構築した。以下に実現した項目を列記する。

- a. 農業モニタリング・デバイスとの密な連携機能インタフェース
- b. クラウド対応超大容量マルチメディアデータ蓄積・管理・編集機能
- c. 目的に適合した最終コンテンツ・サービス実現技術
- d. コンテンツを利用した地域コミュニティ形成方法

(2) 第3次医療圏をカバーするみやぎ医療福祉情報ネットワーク推進支援事業

みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会と密な連携を図り、宮城県全域をカバーする「医療、看護、介護、薬剤」等の医療・福祉の連携推進に関わる支援事業を行った。具体的には、宮城大学の「栄養系慢性疾患に関する地域医療連携」に関する補助事業（厚生労働省老人保健健康増進等事業、三井物産環境基金2011復興助成、杉浦地域医療振興助成）を基盤に、地域医療福祉情報の標準化・共有利活用による価値の創造、地域医療資源の有効活用、生活者を中心とした生活支援体制の構築などを実施した。

2. 公益事業2 応用情報学に関する優れた研究・論文に対する顕彰事業

(1) 応用情報学分野の研究者を育成する事業

(一社) 情報処理学会と連携し、次の顕彰を行った。

- a. 情報処理学会東北支部大会の優秀論文の顕彰
- b. 情報処理学会 DPS 研究会（マルチメディア通信と分散処理研究会）の優秀

ソフトウェア作品の顕彰

(2) その他研究活動への支援

直接的あるいは間接的に公益に寄与するという認識のもとに、当財団の役員、研究員による以下の研究活動等への支援を引き続き行った。

a. ソフトウェア関連技術の研究

先端的なソフトウェア技術に関する調査研究

b. ソフト系 ICT 分野における地域活動への支援

ソフト系 ICT 分野における地域への支援を行った。

c. ICT 利活用に関する地域活動への支援

- ・地域中小企業活性化支援活動を行った。
- ・ICT 利活用に関するセミナーを開催した。

d. 新しい光デバイス研究のためのシミュレーション技術の開発を行い、引き続き地域の先端技術分野における企業の研究者・技術者に対する支援を行った。

具体的には次の論文等の作成に指導及び協力した。

- ・活性媒質中のランダム伝搬光のとりだし効率の上限
- ・フォトニック結晶アレイによる偏光の合流

3. 公益事業 3 東日本大震災の復興事業の支援

(1) 自治体、NPO、企業との共同で東日本大震災の復興事業を支援した。

仙台市、NPO（BHN テレコム支援協議会）避難仮設自治体等と共同で東日本大震災から2周年を迎えて、25年3月1日から3月17日セミナー等を開催した。

セミナーのパネルディスカッションの中で、「災害時の情報の大切さ」を再認識された。

(2) 親密なコミュニティ形成を基盤とした東北復興型 e ビジネス被災地地場産業の復興事業

復興型 e ビジネス被災地地場産業の復興を目的として無償の Web ショップサイト「つながる東北」を立ち上げた。大学、仙台の IT 企業、当財団法人を中心として被災を受けた仙台、石巻の店舗に対してネットショップ店舗の出店支援を展開し、25年3月末時点で32店舗が出店した。今後は気仙沼エリアに働きかけ、より多くの店舗の出店を目指す。また、出店店舗の商品購買を促す仕組みとして、会員制「応援クラブ」を構築し、東京を中心とした消費地の会員約 80

名を募り、年間一定額の商品を購入することによって被災地支援に寄与した。人材育成については総務省の人材育成支援事業に協力し、石巻地区で20名のITスキルを持った人材の育成に寄与した。今後は、旅行者と現地生産者とのリアルな接触を生み出す仕組みを構築して行く予定である。

(3) 災害 FM ラジオ放送の支援

東日本大震災復興としての災害 FM ラジオ放送を、宮城県山元町、亶理町及び南三陸町を支援した。

今後は災害放送からコミュニティ放送への移行となることから支援は25年3月で終了することとなった。

[収益事業] 企業、諸団体から委託を受けて実施する諸調査事業

震災の復興に向けて未来を展望する観点から、企業及び諸団体の方々に向けて講演会を下記で実施した。

- ・平成24年12月13日（木）
- ・N-OVAL ビル
- ・講師 原田 武夫（元外交官、国際戦略情報研究所長）
- ・講演内容
東北の未来を考え2013年に向けた羅針盤を探る
「これから何を考え、行動すれば良いか」
- ・参加者 50名